

抽象と具象のあいだ

甲斐巳八郎を中心に

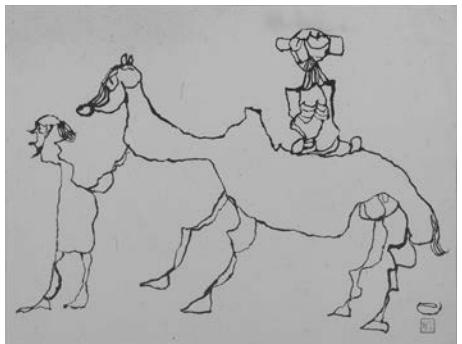
Between the Abstract and the Figurative: Including the works of KAI Mihachiro and Others

会期 2020年9月1日(火)-10月25日(日)

会場 近現代美術室A



左: 甲斐巳八郎 《題不詳(クタイ)》1970年代
右上: 甲斐巳八郎 《題不詳(黄色い花)》制作年不詳
右下: 甲斐巳八郎 《題不詳(らくだ)》1970年代



絵画を区別する「抽象画」「具象画」というキーワード。実際に存在するものの再現を目的とする絵画と、そうでない絵画、とはっきり分けられるよう、実はその境界はあいまいです。

このコーナーでは、淡墨のにじみを生かして実験的な表現に取り組んだ甲斐巳八郎(1903~1979)の新収蔵作品を軸に、具象と抽象の境を行き来する絵画約20点をご紹介します。

[学芸員 忠あゆみ]



〒810-0051
福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051(代表)
FAX 092-714-6071
www.fukuoka-art-museum.jp

作家について

甲斐 巳八郎 KAI Mihachiro 1903-1979

熊本県出身。1927年に京都市立絵画専門学校を卒業後、雲崗石窟調査隊、宗像での教師生活を経て、1930年に満州へ移住。満鉄社員部報道部に所属し、同社機関紙に沿線地域の風俗を綴った絵入りのルポルタージュを発表した。引き揚げ後は宗像郡福間町に移住し、再興日本美術院展に出品するが、1955年に思うところあり画壇と距離をとる。以降生涯にわたり墨の滲みやフリーハンドの線の表情を生かした水墨画に取り組んだ。

恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro 1891-1955

東京府(現・東京都)出身。1909年から竹久夢二と親交を結び、装丁に携わる。1914年、藤森静雄・田中恭吉と版画誌『月映』を発行し、木版画作品を発表する。中でもカンディンスキーに触発された「抒情」シリーズは抽象画の先駆けとされる。創作版画界の中心人物として活躍すると同時に、写真・油彩・装丁などジャンルを横断した造形表現を試み、戦後は「マルチブロック」と呼ばれる複数の版とオブジェを組み合わせた版画で国際的な評価を得た。

吉原 治良 YOSHIHARA Jiro 1905-1972

大阪府出身。独学で絵をはじめ、1928年に初個展を開催。初期は魚の絵を多く描いていたが、1930年代を通じてデ・キリコ風のシュルレアリズム絵画、のちに線による抽象表現へと画風が変遷する。1938年には桂ゆきや山口長男らとともに九室会に参加。1954年、吉原のもとに集った若い美術家を率いて「具体美術協会」を結成。この頃に再び抽象傾向を強め、晩年には単純で巨大な円をキャンバスに大きく描いた作品を発表した。

木原 信 KIHARA Shin 1914-2005

福岡市出身。1935年に小室翠雲の画塾で修業し、1957年福岡県美術協会会員。1962年福岡墨雅会を創立する。1964年日展の書部門に篆刻作品入選。1966年阪急百貨店にて初個展を開催。同年日本南画院展に出品、特選を受賞。1968年日展に日本画作品入選。1992年福岡市文化賞を受賞。福岡市を中心に神社、仏閣の天井画やふすま絵などを多く手がけ、福岡の戦後の日本画壇で重きをなした。

上田 宇三郎 UEDA Usaburo 1912-1964

福岡市出身。1929年から日本画家・平川晃生の下で日本画の技法を学び、1936年に博多築港大博覧会に《少女坐像》を出品。緻密な線による人物画を手掛ける。1947年、宇治山哲平、赤星孝、久野大正、山田栄二と「朱貌社」を結成。1953年の解散まで朱貌社展に出品。この時期から人体・植物を幾何学的な形態で表すことを試みた。晩年には樹林や水紋、宇宙線などのモチーフを通して、物理法則や時間の流れの絵画化に取り組んだ。

主な参考文献

「甲斐巳八郎展 一現代に生きる新しい水墨画の世界」(図録)福岡市美術館編、1982年/「村井正誠展」(図録)神奈川県立近代美術館ほか編、1995年/「木原信作品集」平助筆復古堂、1995年/「生誕100周年記念 井上三綱展」(図録)平塚市美術館、1998年/「生誕100周年記念 猪熊弦一郎回顧展」(図録)丸亀市猪熊弦一郎現代美術館ほか編、2003年/「牛島憲之と昭和前期の絵画 一抽象と具象のあいだ」(図録)府中市美術館編、2004年/「恩地孝四郎 色と形の詩人」(図録)横浜美術館ほか編、2004年/「吉原治良展 一生誕100年記念」(図録)大阪市立近代美術館建設準備室ほか編、2005年/「没後50年 上田宇三郎展—もうひとつの時間へ」(図録)福岡市美術館、2013年/「赤星孝と赤星信子展」(図録)福岡県立美術館、2020年

水墨画による実験的な表現に取り組んだ甲斐巳八郎（1903～1979）の作品は、思い切ったデフォルメを行い、ものの形を再現的に描く伝統的な日本画の枠をはみ出しています。ある種の抽象化を行うことでモチーフの魅力を様々な角度から伝えていますが、甲斐は「“抽象的”は考えられても抽象画はない。」と述べ^{※1}、自らの絵が抽象画と呼ばれるることを拒みました。

そもそも、抽象と具象とはなんでしょう？辞書によれば、抽象は「対象の構成要素のうち、あるものを他から切り離して、ひきだすこと。」だといいます^{※2}。具象画はその対の概念で、「具象（具体的な物）を描いていること」が一つの定義ですが、どんな作品を作るうえでも「あるものを他から切り離して、ひきだす」ことは避けられないはずです。その反対に、抽象絵画が具体的な物を示していることは珍しくありません。抽象画の旗手とされた村井正誠はつねに人や街を主題としてきましたし、上田宇三郎は、水紋を表すために画面全体を薄墨で覆いました。ほとんどの絵画がある程度は具象画で、ある程度は抽象画だと言えてしまうのです。

実際のところ、甲斐の作品の特色は、抽象画と具象画の要素が混ざりあっている部分にあります。本展示では、同時代の国内作家による抽象と具象の境を行き来する作品を3つのキーワードとともに紹介し、甲斐の作品を紐解きます。

※1 「抽象はやはり認められない。“抽象的”は考えられても抽象画はない。無理に描けばデザイン・工芸に近づく。地図の記号はりっぱな役目を果すが絵画には記号であってはならない。小気味よい省略と単純化による「記号的」な場合はうなづけても、どこまでも記号そのものであってはならない。このように絵画を考える時、抽象絵画ははじめから記号であるかもしれません。」（1966年9月22日の制作ノートより）

※2 『世界美術辞典』新潮社、1975年

作品リスト

※ 記載は、作家名（和・英）、題名（和・英）、制作年、技法または材質（和・英）、画面寸法（縦×横cm）、当館分類番号、寄贈者情報である。

O. 甲斐巳八郎の絵画

1 甲斐 巳八郎

題不詳（黄色い花）

Title Unknown (Yellow Flowers)
制作年不詳 紙本着色
colored pigment on paper
25.9×32.1cm
1-B-238
2019年 横山幹生氏寄贈

2 甲斐 巳八郎

題不詳（三日月と風景）

Title Unknown (Crescent Moon over Landscape)
制作年不詳 墨・紙
ink on paper
37.2×27.8cm
1-B-239
2019年 横山幹生氏寄贈

3 甲斐 巳八郎

題不詳（クチイ）

Title Unknown (Kuchi)
1970年代 紙本着色
colored pigment on paper
72.5×48.0cm
1-B-234
2019年 横山幹生氏寄贈

4 甲斐 巳八郎

題不詳（鍋ノ平）

Title Unknown (Nabentaira)
1970年代 墨・紙
ink on paper
23.0×31.8cm
1-B-236
2019年 横山幹生氏寄贈

5 甲斐 巳八郎

題不詳（らくだ）

Title Unknown (A Camel)
1970年代 墨・紙
ink on paper
36.5×46.4cm
1-B-235
2019年 横山幹生氏寄贈

1. 遊ぶ色と形

6 木原 信

梅林寺

Bairinji Temple
制作年不詳 紙本着色
colored pigment on paper
96.0×101.6cm
1-B-213
2007年 清水一枝氏寄贈

7 恩地 孝四郎

あかるい時

(抒情五種より、「月映」V所収)
Enlightening Moment (One of Five Lyriques from "Tsukuhae" V)
1915年 木版・紙
woodcut on paper
13.6×9.8cm
2-E-242

8 恩地 孝四郎

相信するこころ

(抒情五種より、「月映」VI所収)
Hearts Belonging Each Other (One of Five Lyriques from "Tsukuhae" VI)
1915年 木版・紙
woodcut on paper
13.4×9.7cm
2-E-244

9 恩地 孝四郎

躍る（抒情五種より、「月映」VI所収）

Heightened (One of Five Lyriques from "Tsukuhae" VI)
1915年 木版・紙
woodcut on paper
13.4×9.9cm
2-E-246

10 吉原 治良

作品

Work
1936年頃 油彩・画布
oil on canvas
53.7×65.8cm
2-A-50

2. 必要にして十分な形

11 井上 三綱

しゃがみかけた牛

Squatting Cow
1950年 油彩・画布
oil on canvas
118.3×70.6
1-A-226
1983年 井上正子・皓子氏寄贈

12 井上 三綱

黄鐘調

Ojikicho
1965年 貼紙、紙本着色、六曲一隻屏風
colored pigment and paper on paper, a six-fold screen
157.5×344.0cm
1-B-116
1983年 井上正子・皓子氏寄贈

13 上田 宇三郎

水

Water
1961年 紙本着色
ink on paper
119.3×90.3cm
1-B-57

14 上田 宇三郎

スキ

Japanese Pampas Grass
1957年 紙本着色
colored pigment on paper
64.2×91.6cm
1-B-54
1978年 上田のぶ子氏寄贈

15 甲斐 巳八郎

シャーリゾハク（バーミヤンの砦）

Bamiyan Fortress
1973年 紙本着色
ink on paper
133.4×67.7
1-B-113
1982年 甲斐芳氏寄贈

16 甲斐 巳八郎

雨

Rain
1965年 紙本着色
ink on paper
132.8×66.0cm
1-B-112
1982年 甲斐芳氏寄贈

3. 風景を捉え再構成する

17 猪熊 弦一郎

風景 GJ

Landscape GJ
1972年 アクリル・画布
acrylic on canvas
127.3×102.3cm
2-A-13

18 赤星 孝

リュウ・ルビック

Rue Lepic (Lepic Street)
1974年 油彩・画布
oil on canvas
162.2×130.9cm
1-A-10

19 村井 正誠

Cité No.1/Cité No.2
City 1/City 2
1939年/1940年 油彩・画布
oil on canvas
113.7×194.2cm
2-A-42a、42b

20 牛島 憲之

赤坂見附

Akasakamitsuke
1940年 油彩・画布
oil on canvas
60.8×121.7cm
1-A-24